

—— 高知市立自由民権記念館企画展 ——

木村久寿弥太日記の世界

三菱総理事木村久寿弥太が綴った、三菱グループの動きや政治家・財界人などとの多彩な交流がうかがえる、
日本近代史上貴重な資料を紹介します。



2025(令和7)年

2026(令和8)年

期間 10/4_土 → 2/23_{月祝}

会場 高知市立自由民権記念館
2階 特別展示室

時間 午前9時30分～午後5時

観覧料

個人(18歳以上)320円

団体(20人以上)250円/1人

(常設展・企画展共通)

高校生以下、65歳以上、療育手帳、身体障害者
手帳及び精神障害者保健福祉手帳所持者とその
介護者1人は無料



応援
事業



よさこい高知
文化祭2026



■休館日 月曜日。祝日の翌日。祝日が月曜日と重なる場合にはその翌日。(土・日・祝日は開館)

■主催 高知市立自由民権記念館

■後援 高知新聞社 朝日新聞高知総局 毎日新聞高知支局 読売新聞高知支局 NHK高知放送局
RKC高知放送 KUTVテレビ高知 KSSさんさんテレビ エフエム高知 KCB高知ケーブルテレビ



高知市立 自由民権記念館

〒781-8010 高知市棧橋通四丁目14番3号
TEL 088-831-3336 FAX 088-831-3306
HP <https://www.i-minken.jp/>



木村久寿弥太日記の世界

木村久寿弥太は、三菱グループの総理事を務めるなど、戦前の財界の重鎮として活躍した高知市出身の実業家です。

令和3年、高知市は、久寿弥太本人の日記18冊を含む木村家の日記資料等の寄贈を受けました。当館では、令和4年より日記の撮影及び調査・翻刻作業を行ってまいりました。そして、令和7年9月、その成果をインターネット上で公開する運びとなりました。本展は、この公開を記念して開催するものです。

本日記は、日常生活はもとより、三菱グループの動き、財界人、政治家や文化人などとの多彩な交流、関東大震災、濱口雄幸遭難などの社会的事件に触れるなど、日本近代史の貴重な資料となっています。

寄贈された日記は、大正7年1月1日から昭和10年11月22日（死の前日）までの内、大正14年、大正15年・昭和元年、昭和2年の3年分を除く、全18冊です。



木村久寿弥太の生涯

久寿弥太は、慶応元年12月2日、現高知市赤石町の田岡家に生まれ、のちに叔父の養子となります。明治23年東京帝国大学を卒業後、三菱に入り要職を歴任。大正11年には総理事を務めたほか、三菱鉱業、三菱製鉄会長などを兼任します。財界では日本工業倶楽部創立会員、日本商工会議所顧問などを務めました。昭和7年総理事を辞任、三菱の社長室会議員となります。昭和10年11月23日病没。社会評論家の田岡嶺雲は実弟、直木賞作家の田岡典夫は甥。

記念行事「木村久寿弥太日記を読む」

2026(令和8)年1月24日(土) 14時～

記念講演 演題：木村久寿弥太と大正・昭和戦前期の日本
講師：奈良岡聰智氏（京都大学大学院法学研究科教授）

報告 木村久寿弥太日記翻刻メンバーによる報告を行います。
会場：当館1階 民権ホール



木村日記についての詳細はこちら▶▶▶



多彩な交流

政治家

原敬（1856-1921）

久寿弥太は、原の首相時代官邸にたびたび招待されています。その際頼みごとをされることも多く、大正9年9月13日の記事に「首相官邸ノ招待ハ常ニ（食ハシテライテサテ）ト云フニアリ訝有ハ馳走ニアラス」と不満を記しています。

濱口雄幸（1870-1931）

三菱は濱口雄幸を支援していました。久寿弥太の日記にも内閣組閣、東京駅遭難など、多数の記述があります。濱口も同郷の久寿弥太を信頼していました。濱口が死去した昭和6年8月26日の記事に「中島邦次氏ヨリ数日前余ニ会タガリ居リタリ聞キ残念ニ思ヘリ」と記されています。

芸能人

中村吉右衛門（1886-1954）

明治末から昭和にかけて活躍した歌舞伎役者。久寿弥太は、中村吉右衛門を慕っていました。昭和8年7月28日には「余カ処蔵スル処ノ熊本本妙寺々宝加藤清正短刀写ヲ贈與スルノ式」を盛大に行い、また翌年には歳暮として「北溪画（天保十四年四月）清正ノ図絹本条幅」を贈っています。

水谷八重子（1905-1979）

大正から昭和にかけて活躍した新劇、新派の女優。久寿弥太は、昭和5年9月8日「帝劇ヲ見物ス俳優ハ早川雪州水谷八重子、井上正夫小堀、房子日出子ノ連中」昭和7年10月19日「壽美全伴四時明治座ニ赴キ水谷八重子劇ヲ見物ス」と水谷八重子の舞台を観劇しています。

（各人のイラストは岡本一平「新水也空」より）

日記より

久寿弥太の三菱在職中の社長は、岩崎弥之助、久弥、小弥太です。岩崎家の信任も厚く、職務以上の交流が記されています。また、久弥と小弥太は時には意見の相違もあり、久寿弥太は調整に苦勞しています。大正8年9月26日の記事に「夜分八時茅町ヲ訪ヒ社長ノ意ヲ傳ヘ根本義ヲ解決ス茅町ノ衷心聞ケハ涙ノ流ル、斗ナリ之レニテ三菱ニ奉公シタル余ノ義務ヲ果セリ」、10月1日「社長室ニテ現前両社長昨日会見ノ模様ヲ聞ク所ノ意思疏通合致スルニ至リタルヲ喜ブ」とあります。



岩崎 小弥太



岩崎 久弥

（ともに国立国会図書館近代日本人の肖像より）

関東大震災

大正12年9月1日の関東大震災は、久寿弥太にとっても特筆すべき出来事でした。その体験がリアルタイムで綴られるとともに、その後の世間や三菱の騒然とした様子が記されています。

ツツントノ響地震カト思フ間モナク壁ハ余ノ頭ニ落チカ、ヘリリ立チテ脱レンスルト
脚モチレテ歩ムコト不能力ラク毛脱シテ庭ニ出テ家ヲ顧レハ小船ノ大浪ニモマル、如ク上下左右ニ動揺シツ、アリ

ツツントノ響地震カト思フ間モナク壁ハ余ノ頭ニ落チカ、ヘリリ立チテ脱レンスルト
脚モチレテ歩ムコト不能力ラク毛脱シテ庭ニ出テ家ヲ顧レハ小船ノ大浪ニモマル、如ク上下左右ニ動揺シツ、アリ

高知市立自由民権記念館

【車利用】
JR高知駅より約10分 高知ICより約15分
駐車場（無料）車約60台、バス6台
【路面電車利用】
JR高知駅より約15分 「桧橋通4丁目」または「桧橋車庫前（自由民権記念館前）」下車
【バス利用】
JR高知駅より約15分 「桧橋通4丁目」下車



久寿弥太没後の木村家は、高知市に不動産と現金を寄付。高知市はその遺志を受け、昭和12年に木村会館などを設置しました。木村会館は、新築、改築を経て、現在は「高知市旭コミュニティセンター」「高知市立旭文化センター」「高知市民図書館」を持ち、コミュニティ活動の場として、市民に親しまれています。

木村会館